

平成 28 年度

事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

学校法人 安田学園

目 次

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地	
(1) 安東キャンパス	1
(2) 白島キャンパス	1
2. 沿革	2
3. 組織図	
(1) 学校機構図	4
(2) 事務組織図	5
4. 設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数	6
5. 役員、教職員数	7

II. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業	
(1) 安田女子大学・安田女子短期大学	8
(2) 安田女子高等学校・安田女子中学校	14
(3) 安田小学校	16
(4) 安田女子大学附属幼稚園	20
(5) 安田女子短期大学附属幼稚園	23
(6) 安田学園セミナーハウス	26
(7) 創立100周年記念事業推進企画委員会	26

III. 財務の概要

1. 資金収支計算書の推移	28
2. 事業活動収支計算書の推移	29
3. 貸借対照表の推移	30
4. 貸借対照表関係比率の推移	31
5. 事業活動収支計算書関係比率の推移	31
6. 在学生数・教職員数の推移	31
7. 5年間の財務 経年比較表	33

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地

(1) 安東キャンパス

広島市安佐南区安東6丁目13番1号

学 校 名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備 考		
安田女子大学	大学院 文学研究科 博士前期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 教育学・心理学コース 臨床心理学コース	平成6年度	平成24年度から募集停止		
	博士後期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻	平成8年度			
	家政学研究科 修士課程 健康生活学専攻	平成25年度			
	薬学研究科 博士課程 薬学専攻	平成25年度			
	文学部 日本文学科 書道学科 英語英米文学科 心理学科	昭和41年度 平成23年度 昭和41年度 平成16年度			
	教育学部 児童教育学科	平成24年度			
	心理学部 心理学科	平成24年度			
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科	平成15年度 平成27年度			
	家政学部 生活デザイン学科 管理栄養学科 造形デザイン学科	平成16年度 平成16年度 平成28年度			
	薬学部 薬学科	平成19年度			
	看護学部 看護学科	平成26年度			
	安田女子短期大学	保育科		昭和30年度	
	安田女子大学付属 幼稚園			昭和56年度	

(2) 白島キャンパス

広島市中区白島北町1番41号

学 校 名	学部・学科・専攻・課程	開設年度	備 考
安田女子高等学校	全日制課程 普通科	昭和23年度	
安田女子中学校		昭和22年度	
安田小学校		昭和31年度	
安田女子短期大学 付属幼稚園		昭和28年度	

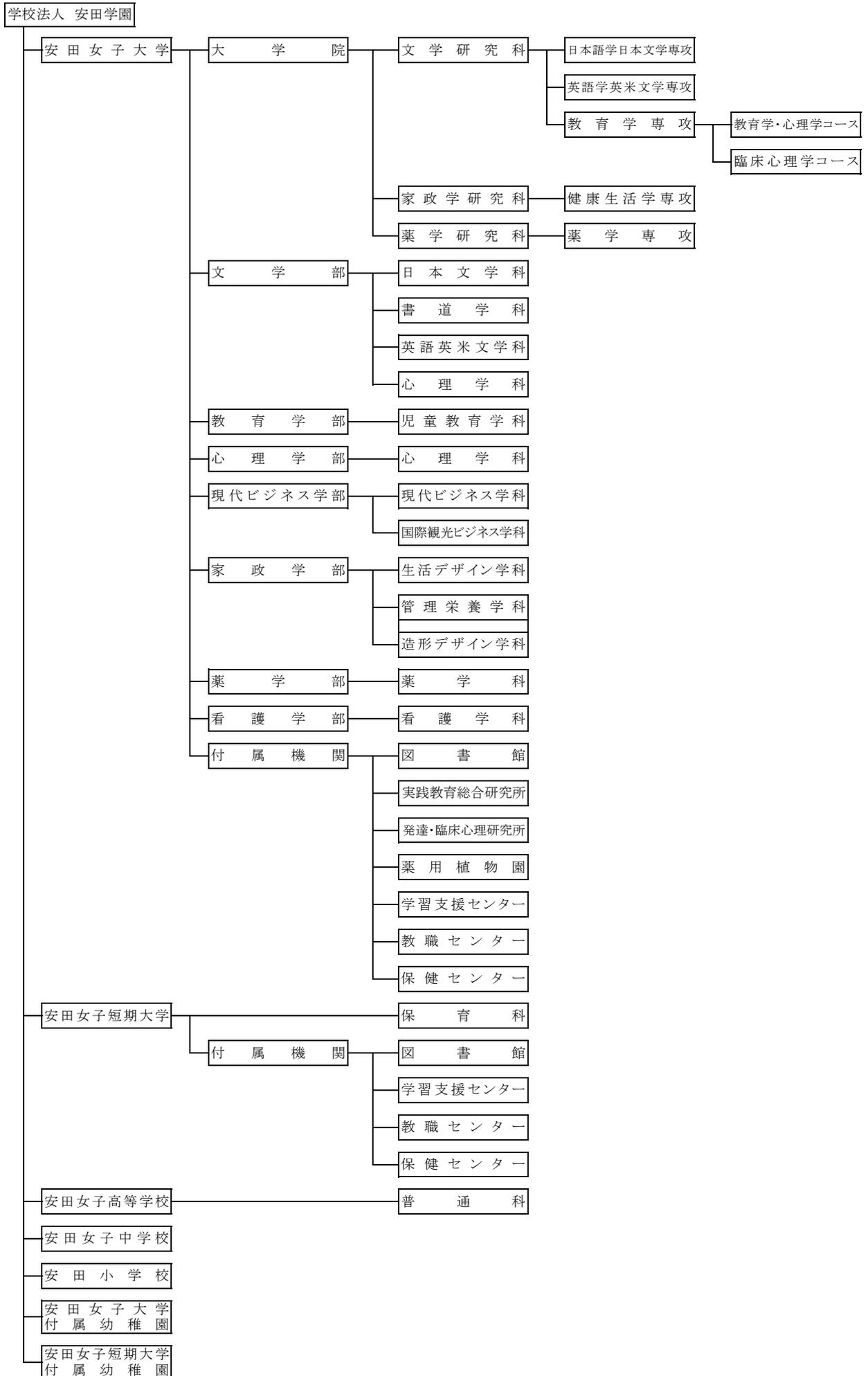
2. 沿革

大正	4年 (1915)	1月	広島技芸女学校開校の開設認可を広島県知事より受ける
		4月	各種学校令による広島技芸女学校開校 (広島市中島本町)
	6年 (1917)	10月	校地を広島市基町 (現西白島町) に移す
	7年 (1918)	4月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称
			実業学校令による広島技芸女学校開校
	9年 (1920)	4月	広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格
			安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復す
	11年 (1922)	4月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校
昭和	2年 (1927)	8月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称 (昭和20年3月まで存続)
		3年 (1928)	8月
	5年 (1930)	5月	広島女子教員養成所開所
	19年 (1944)	3月	広島女子教員養成所廃止
		5月	安田高等女学校内に保育所併設 (昭和20年3月まで)
	20年 (1945)	8月	原子爆弾のため職員13名、生徒315名死亡 校舎全壊 終戦
		12月	校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年1月本格的復興工事開始
	21年 (1946)	4月	安田高等女学校5年制となる
	22年 (1947)	4月	学制改革により安田女子中学校を開校
			広島Y・D・Mカレッジ開校
	23年 (1948)	5月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校
	26年 (1951)	3月	学校法人安田学園へ組織を変更
		4月	広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校 (昭和28年3月まで)
	28年 (1953)	4月	安田学園幼稚園教員養成所を開所
		6月	昭和27年5月開園した安田保育園を廃止し、安田幼稚園を開園
	30年 (1955)	4月	安田女子短期大学保育科開学
	31年 (1956)	3月	安田学園幼稚園教員養成所廃止
		4月	安田小学校開校
	36年 (1961)		安田幼稚園を安田女子短期大学付属幼稚園と改称
		4月	短期大学に家政科開設
	40年 (1965)	3月	広島Y・D・Mカレッジ廃止
	41年 (1966)	4月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科が安東校地に開学
	42年 (1967)	9月	短期大学を白島校地より安東校地に移転
	50年 (1975)	4月	大学文学部に児童教育学科開設
	56年 (1981)	4月	安田女子大学付属幼稚園を安東校地に開園
	59年 (1984)	4月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科と科名変更
	63年 (1988)	4月	短期大学に秘書科開設
平成	3年 (1991)	4月	短期大学家政科を生活科学科と科名変更
		6年 (1994)	4月
	8年 (1996)	4月	大学院文学研究科に博士後期課程を開設
	10年 (1998)	4月	大学文学部に人間科学科を開設
	14年 (2002)	4月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の2専攻に分割
	15年 (2003)	4月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を開設
	16年 (2004)	4月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を開設
			大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科は学生募集停止 短期大学生活科学科は学生募集停止

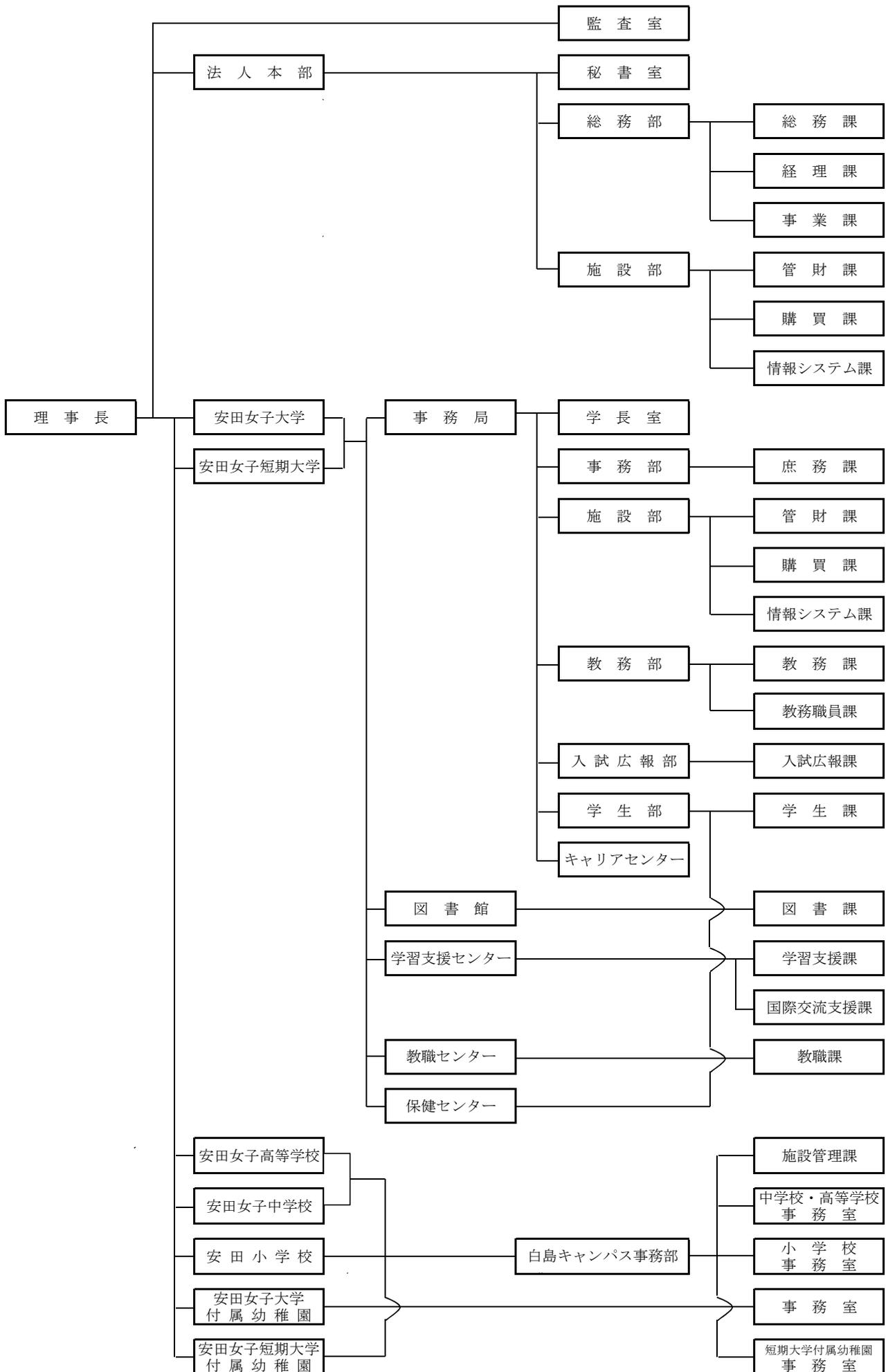
平成	17年 (2005)	3月	短期大学生生活科学科を廃止
	19年 (2007)	4月	大学に薬学部薬学科 (6年制) を開設
		9月	大学文学部人間科学科を廃止
	23年 (2011)	4月	大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科日本文学専攻は学生募集停止 大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書道文化専攻は学生募集停止
	24年 (2012)	4月	大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童教育学科は学生募集停止 大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科は学生募集停止
	25年 (2013)	4月	大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を開設 大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を開設
	26年 (2014)	4月	大学に看護学部看護学科を開設
	27年 (2015)	4月	大学に現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科を開設 短期大学秘書科は学生募集停止
	28年 (2016)	3月	短期大学秘書科を廃止
	28年 (2016)	4月	大学に家政学部造形デザイン学科を開設

3. 組織図

(1) 学校機構図



(2) 事務組織図



4. 設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

平成28年5月1日現在

設 置 学 校	入 学 員	編入学員	収 容 員	在 生 数	備 考
安田女子大学					
大学院					
文学研究科					
博士前期課程	30	—	60	26	
博士後期課程	9	—	27	4	
家政学研究科 修士課程	3	—	6	1	
薬学研究科 博士課程	2	—	8	2	平成25年度開設
大学院計	44	—	101	33	
文学部					
日本文学科	90	1	362	378	
書道学科	30	1	122	114	
英語英米文学科	110	2	444	455	
心理学科	—	—	—	1	平成24年度から募集停止
文学部計	230	4	928	948	
教育学部					
児童教育学科	150	10	500	552	
教育学部計	150	10	500	552	
心理学部					
心理学科	90	2	364	364	平成24年度文学部心理学科を改組
心理学部計	90	2	364	364	
現代ビジネス学部					
現代ビジネス学科	120	2	484	537	
国際観光ビジネス学科	60	0	120	160	平成27年度開設
現代ビジネス学部計	180	2	604	697	
家政学部					
生活デザイン学科	105	2	424	473	
管理栄養学科	120	—	480	459	
造形デザイン学科	80	—	80	69	平成28年度開設
家政学部計	305	2	984	1,001	
薬学部					
薬学科	120	—	730	517	
薬学部計	120	—	730	517	
看護学部					
看護学科	120	—	360	361	平成26年度開設
看護学部計	120	—	360	361	
学部計	1,195	20	4,470	4,440	
大学計	1,239	20	4,571	4,473	
安田女子短期大学					
保育科	150	—	300	304	
短大計	150	—	300	304	
安田女子高等学校					
全日制課程 普通科	270	—	810	763	
安田女子中学校	250	—	750	579	
安田小学校	80	—	480	484	
安田女子大学付属幼稚園	70	—	210	203	
安田女子短期大学付属幼稚園	60	—	200	195	
学 園 合 計			7,321	7,001	

5. 役員、教職員数

平成28年5月1日現在

(1) 役員

理事 9 人 (理事長 1 人含む)

監事 3 人

(2) 教職員

区 分	教 員	事務職員	非常勤教員	兼務職員	計
安田女子大学	201	103	209	59	572
安田女子短期大学	12	5	13	4	34
安田女子高等学校	40	11	7	11	69
安田女子中学校	34	3	8	4	49
安田小学校	25	4	4	9	42
安田女子大学付属幼稚園	11	1	0	11	23
安田女子短期大学付属幼稚園	10	1	0	12	23
その他	0	5	0	2	7
学 園 合 計	333	133	241	112	819

Ⅱ. 事業の概要

1. 当該年度の主な事業

(1) 安田女子大学・安田女子短期大学

① 大学機関別認証評価の受審

大学では、7年以内ごとに自己点検・評価報告書を作成するとしていることから、平成28年6月に自己点検・評価報告書を作成し、財団法人日本高等教育評価機構による平成28年度大学機関別認証評価を受審しました。評価の結果、本学は日本高等教育機構が定める基準に適合しているとの認証評価結果を受けました。

② 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に選定

「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学等に対し、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援するものです。全国198校の申請に対し、選定は40校（選定率20%）（タイプA：17件、タイプB：23件）でした。

本学はタイプA（地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究）の事業で選定され、中四国で選定されたのは2校のみとなっています。事業概要は以下のとおりです。

◆事業名：

小学校での英語教育を実質化する教員養成・研修システムの研究開発と展開

◆事業期間：

5年

◆事業概要：

平成32年からの小学校での英語の教科化を見据えて、本学の児童教育学科と英語英米文学科の教員養成における協働モデルの開発、ならびに現職小学校教員と中学校教員の教員研修における協働モデルの開発をするもの。また、その中で、学生と現職教員が共に学び、本学ならびに海外で英語研修と指導法研修を行い、量的・質的方法で縦断的にその効果を検証する。なお、本学教職員に加え、広島市教育委員会とも連携し事業を推進していく。

③ 『安田女子大学 安田女子短期大学 Sophia』開設

安東駅から徒歩1分の場所に『安田女子大学 安田女子短期大学 Sophia』を平成28年10月1日に開設しました。主に「心理教育相談室（分室）」「乳幼児子育て相談室」として、地域の方にもアクセスしやすい場所に設置したものです。施設内には「相談室」のほか、「保育スペース」が用意されています。安田女子大学附属幼稚園でも共同で利用しています。

④ 外務省 JENESYS 事業への協力

外務省の国際交流事業、JENESYS プログラム（21世紀東アジア青少年大交流計画）の一

環で、ASEAN 各国およびインド、東ティモールから男女 24 名の学生が 11 月 11 日（金）に
来訪しました。本学の学生ボランティア 22 名と一緒に折り鶴を作成し、平和構築への意見
を交わしました。また、書道学科の学生による書道パフォーマンスを見学した後、一枚の
大きな布に平和へのメッセージを寄せ書きしました。

外務省の国際交流事業に関連する受け入れは 2 回目、今後も国際交流・地域連携の観
点から推進していく予定です。

⑤ 学習支援センター

平成 28 年度の同センターの活動内容は、以下のとおりです。

A. 課外講座

開講、受講状況は、次のとおりです。

提供講座：28 講座 開講講座：23 講座 延べ受講者数：884 名

B. ボランティア活動

103 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 363 名の学生が参加しました。

C. 各種検定試験

学内で申し込みを受け付ける検定試験は、「TOEIC®」、「日本語検定」、「日本漢字能力検
定」、「硬筆書写技能検定」、「毛筆書写技能検定」「秘書検定」「日商簿記検定」の 7 検定で
す。秘書検定と日商簿記検定を除く 5 検定は学内で試験を実施しています。これらの検定
試験（日商簿記検定を除く）については、受験料の一部が安田女子大学後援会から補助さ
れています。更に TOEIC®の 1 年生向けについては、大学が受験料の全額を負担しています。

平成 28 年度の各検定試験の申込者数は、下表のとおりです。

(人)

検定試験	級	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回 海外研修の事 前事後用含む	1 年生 向け	合計
TOEIC®	—	275	156	267	408	1104	2210
日本語検定	2 級	5	8	—	—	—	13
	3 級	4	4	—	—	—	8
日本漢字能力 検定	2 級	31	30	37	—	—	98
	準 2 級	10	15	4	—	—	29
硬筆書写技能 検定試験	1 級	0	0	0	—	—	0
	準 1 級	1	18	6	—	—	25
	2 級	2	4	6	—	—	12
	3 級	2	2	2	—	—	6
毛筆書写技能 検定試験	1 級	0	0	0	—	—	0
	準 1 級	0	1	0	—	—	1
	2 級	1	0	0	—	—	1
	3 級	0	0	0	—	—	0
秘書検定	1 級	1	2	0	—	—	3
	準 1 級	13	14	0	—	—	27
	2 級	85	115	98	—	—	298
	3 級	21	9	3	—	—	33

日商簿記検定	2級	1	14	14	—	—	29
	3級	53	105	91	—	—	249

⑥ 保護者懇談会

保護者の方々に御来学いただき、教員との面談や施設見学の中で、安田女子大学・安田女子短期大学の教育等に御理解いただくことを目的とした保護者懇談会を実施しました。

平成28年度は、通算第7回目の開催となり、10月1日(土)に開催しました。

また、弦楽部による演奏が、1号館1階ラーニングコモンズで行われ、多数の保護者の方に御覧いただきました。

なお、来場者数集計、保護者の評価は、以下のとおりです。

A. 来場者集計結果

- ・ 526名の保護者が来場され、347名が各学科個別懇談に参加されました。
- ・ 学科ごとの学生数に対する来場者比率は、薬学部保護者会を当日同時開催した薬学科が23.4%、次いで開設から3年目を迎えた看護学科が18.3%、と高い参加率でした。続いて、開設から2年目を迎えた国際観光ビジネス学科が12.5%、児童教育学科が12.3%、でした。
- ・ 学年別では、1年生11.9%、2年生6.9%、3年生9.1%、4年生4.7%、薬学科5年生18.5%、同学科6年生は22.7%でした。昨年度と同様、入学したばかりの保護者の関心が高かったほか、就職を控えた3年生、薬学5、6年生の保護者の関心が高いことがうかがえる結果となりました。
- ・ 地域別では、広島県の54.4%に続き、山口県7.6%、島根県3.8%、福岡県2.5%、岡山県1.4%、愛媛県1.1%、鳥取県0.6%でした。
- ・ 過去に参加されたことがあるか(リピート率)についてアンケートを取ったところ、回答者のうち、49.6%が過去にも参加されたことがわかりました。

B. 保護者の評価

全体内容については、アンケートの3段階評価(よかった、どちらでもない、よくなかった)のうち「よかった」が94.9%と、昨年度と同様、高い評価を得ることができました。

開催時期に関しては、95.5%が「ちょうど良い」との回答結果を得ました。

⑦ 海外研修プログラム

本学では、外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために「海外研修プログラム」を実施し、単位認定しています。

平成28年度は、以下のプログラムを実施しました。

A. アメリカ派遣6ヵ月留学(STAYS)15単位

対象： 大学文学部英語英米文学科2年生(参加者：39名)

期間： 平成28年9月22日～平成29年2月16日(148日間)

派遣先： カリフォルニア大学デイヴィス校(アメリカ)

B. アメリカ派遣6ヵ月留学(STAYS)15単位

対象： 大学文学部英語英米文学科2年生(参加者：40名)

期間： 平成28年8月30日～平成29年1月31日(155日間)

派遣先： ピッツバーグ大学(アメリカ)

- C. アメリカ派遣 6 ヶ月留学 (STAYS) 15 単位
 対 象： 大学文学部英語英米文学科 2 年生 (参加者：29 名)
 期 間： 平成 28 年 9 月 3 日～平成 29 年 1 月 30 日 (150 日間)
 派遣先： ブリティッシュコロンビア大学 (カナダ)
- D. 児童教育学科海外教育語学研修 (SEEC) 2 単位
 対 象： 大学児童教育学科 1～3 年生 (参加者：20 名)
 期 間： 平成 29 年 2 月 5 日～平成 29 年 3 月 7 日 (31 日間)
 派遣先： ヴィクトリア大学 (カナダ)
- E. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修 I (G. LABOS I) 2 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 1～3 年生 (参加者：17 名)
 期 間： 平成 29 年 2 月 1 日～平成 28 年 3 月 7 日 (35 日間)
 派遣先： 南クイーンズランド大学 (オーストラリア)
- F. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修Ⅲ (G. LABOSⅢ) 2 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 1～4 年生 (参加者：24 名)
 期 間： 平成 28 年 8 月 1 日～平成 28 年 8 月 28 日 (28 日間)
 派遣先： ワシントン大学 (アメリカ)
- G. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program) 16 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 1 年生 (参加者：79 名)
 期 間： 平成 29 年 2 月 25 日～平成 29 年 7 月 24 日 (150 日間)
 派遣先： ハワイ大学マノア校 (アメリカ)
- H. 看護学科国際交流・実践 (IEAP) 2 単位
 対 象： 大学看護学部看護学科 2 年生 (参加者：13 名)
 期 間： 平成 28 年 8 月 25 日～平成 28 年 9 月 22 日 (29 日間)
 派遣先： アルバータ大学 (カナダ)
- I. アメリカ文化語学演習 (ACL P) 2 単位
 対 象： 大学 1～3 年生、短期大学 1 年生 (参加者：27 名)
 期 間： 平成 29 年 2 月 5 日～平成 29 年 3 月 7 日 (31 日間)
 派遣先： ヴィクトリア大学 (カナダ)
- J. 中国文化語学演習 (CCLP) 2 単位
 対 象： 大学 1～4 年生 (参加者：15 名)
 期 間： 平成 29 年 2 月 4 日～平成 29 年 2 月 18 日 (15 日間)
 派遣先： 国立台中科技大学 (台湾)

⑧ 奨学金/留学生交流支援制度 (短期派遣)

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度 (協定派遣) に次の 5 プログラムが採択されました。

海外留学支援制度 (協定派遣) とは、日本の大学、大学院、短期大学等が、諸外国の学校等と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づく諸外国の学校等への短期間の学生派遣を支援する奨学金で、月額 8 万円を支援するものです。

本学では、対象の海外留学プログラム参加学生で、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計 190 名に、独立行政法人日本学生支援機構から受けた奨学金 6,760 万円を給付しました。

【申請したプログラム・奨学生数・奨学金総額（内訳）】

- A. 英語英米文学科アメリカ派遣6ヵ月留学（STAYS）・64名・3,072万円（64名×8万円×6ヶ月）
- B. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）・43名・2,064万円（43名×8万円×6ヶ月）
- C. 児童教育学科海外教育語学研修（SEEC）・23名・368万円（23名×8万円×2ヶ月）
- D. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（G.LABOSⅠ・Ⅱ・Ⅲ）・37名・888万円（37名×8万円×3ヶ月）
- E. 看護学科国際交流・実践（IEAP）・23名・368万円（23名×8万円×2ヶ月）

⑨ 奨学金/安田女子大学海外研修支援制度

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、本学として、次の2プログラムを支援しました。

安田女子大学海外研修支援制度とは、安田女子大学と諸外国の学校等とのプログラム等に基づき、当該諸外国の学校等へ派遣する本学の学生に対して支援する支援金で、平成28年度は、一括25万円を支援しました。

平成28年度は、対象の海外留学プログラム参加学生で、本支援金の給付を希望する学生を選考し、合計48名に1,200万円を給付しました。

【対象のプログラム・奨学生数・奨学金総額（内訳）】

- A. 英語英米文学科アメリカ派遣6ヵ月留学（STAYS）・26名・650万円（26名×25万円）
- B. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）・22名・550万円（22名×25万円）

⑩ 奨学金/教育ローン利息補給奨学金制度

教育ローン利息補給奨学金とは、指定金融機関の教育ローンを利用して納入する学納金等に係る利息の一部を奨学金として学生又は学生の保護者に補給するものです。

平成28年度は、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計75名に194万円を給付しました。

⑪ 学生の出身高等学校訪問

広島県外高等学校出身の在学生（大学・短期大学1年生）が夏休み中に帰省して、出身高等学校（母校）を訪問し、高等学校の先生に成長した姿を見せて学生生活を報告することを教育的な機会と考え、大学として支援しました。

また、平成28年度は、熊本地震の特別措置として、帰省先が熊本県・大分県の在学生（大学・短期大学2年生～6年生）に対しても支援しました。

広島県外の学生は、埼玉県から熊本県まで20の都道府県で243名在籍しており、このうち、80名が出身校を訪問しました。

⑫ 新入生歓迎行事

A. 新入生のためのクッキングセミナー

平成28年4月9日（土）および4月11日（月）～14日（木）の5日間、新入生の自立

を支援する企画のひとつとして開催しました。

初めての一人暮らしで自炊が不安な学生はもちろん、料理に関心がある学生や料理が苦手という学生まで、5日間で100名を超える新入生が参加しました。

B. 一人暮らし支援イベント

平成28年4月16日(土)、一人暮らしを始めたばかりの新入生に、同郷の先輩、同級生、教職員との出会いの場を提供し、つながりをつくることで一人暮らしの不安を和らげ、順調な大学生活をスタートしてもらうことを目的として開催しました。

当日は約200人の新入生・上級生、教職員が参加し、出身が同じ県、地域ごとにテーブルを囲み、ゲームや歓談を楽しみました。

C. オリエンテーションセミナー

平成28年度の実施日程は、下記のとおりです。

平成28年 5月 7日(土) ~ 9日(月)	心理学科 現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科	国立江田島青少年交流の家
平成28年 5月 9日(月) ~ 11日(水)	児童教育学科 薬学科	
平成28年 5月 7日(土) ~ 9日(月)	生活デザイン学科 管理栄養学科 造形デザイン学科	国立三瓶青少年交流の家
平成28年 5月 9日(月) ~ 11日(水)	英語英米文学科 看護学科	
平成28年 5月11日(水) ~ 13日(金)	日本文学科 書道学科 保育科	

⑬ 保育士資格取得特例講座を実施

認定こども園法の改正により、平成27年4月から「幼保連携型認定こども園」が創設され、幼稚園教諭及び保育士資格の両方を持つ「保育教諭」の配置が義務付けられました。本学では広島県との連携協力協定を締結し、平成28年8月に保育士資格を持たない幼稚園教諭等を対象に「保育士資格取得特例講座」2科目を開講し、58名が受講しました。

⑭ 免許状更新講習を実施

現職教員、教員採用内定者などに対し、教員として必要な資質能力の保持のため、定期的に最新の知識技能を身に付ける制度である免許状更新講習を平成28年8月に開講しました。本学では、幼稚園、小学校、中学校・高等学校(国語・書道・外国語(英語)・家庭科)教員コースを設け、コースごとに必修講座(6時間)、選択必修講座(6時間)及び選択講座(18時間)、合計30時間の講座を開講し、約350名が受講しました。

⑮ ノートパソコン供与

新入生全員に同一モデルを供与しました。これにより、ノートパソコンを活用した学習効果が向上しました。

⑩ 施設の改修・整備

A. 1号館建設

学生の主体的な学びの場所として、1階・2階に学習・教育・活動空間を備えるラーニングコモンズを整備しました。又、同施設の3階～5階は、教室設備（3,450席）を整備し、教育環境の更なる改善に取り組んでいます。

1号館建設に伴い、旧耐震基準で建設された2棟の建築物を解体することにより、学園全体の防災施設の強化につながりました。

B. 8号館ピアノレッスン室の整備

8号館B1階の心理実験室を移設し、音楽練習室(ピアノ30台設置)を整備しました。

大学入口付近に整備する事により、教育環境の利便性を高めることができました。

C. A棟連絡通路、まほろば館連絡通路改修工事

建設後20年が経過した2本の連絡通路の全面改修工事を行い、老朽化による天井剥落防止及び、雨天時の転倒災害防止対策を行いました。

D. まほろば館2階照明更新工事

まほろば館2階通路及びホールの照明をLED化し、環境配慮と共にホール内の照度を300Lx以上確保し自習スペースの環境改善を行いました。

E. まほろば館2階東側出入口改修

まほろば館2階東側出入口の通路幅を拡張し、扉を自動ドアに改修しました。

以前は、通行が多い時は混雑しスムーズな往来ができませんでしたが、通路の拡張と自動ドア化することで、より安全で快適な環境を提供することができました。

F. 2階建て自転車置場建設

学生数増員に伴う自転車置場の不足に対し、2階建て自転車置場を増設しました。

増設により自転車置場の分散化を無くし、隣接する道路での接触災害防止対策を行いました。

G. 9号館ロッカー増設

学生数増員に伴う学生ロッカーの不足に対し、ロッカーを増設しました。

H. 図書館照明LED化工事

照明設備は設置後33年を経過し安定器の故障が増加しているため、省エネを推進し照明器具をLED化しました。

I. 陶芸室棟建設

造形デザイン学科新設に伴う陶芸用の電気窯を整備し、陶芸室棟を造形デザイン学科の拠点となる9号館西側に併設することで、教育環境を向上しました。

J. 9号館西側通路拡幅工事

校内道路のメイン動線を歩行者専用通路とするため、9号館西側道路を拡幅することにより、歩行者と車両の動線を明確にし、学生及び教職員の安全を確保しました。

(2) 安田女子高等学校・安田女子中学校

① 課題研究と教科連携による生徒の科学的思考力育成の取り組み

平成24年度からのスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）指定により、理科・数学を中心とした科学的思考力・判断力・表現力の育成が、学校としての研究開発課題となっています。本校ではこの取り組みを理科と数学に限定せず学校全体の取り組みとして、すべての生徒の科学的思考力を向上させるため、中学1年生から教科連携を取り入れた課題研究に

取り組んでいます。

中学 1～2 年生：研究の手法を学び研究の流れを理解させることを目的に身近な問題を題材として、グループによる課題研究に取り組みました。

中学 3 年生：ゼミを構成し、ゼミごとにテーマを設定して 1 年間かけた長期研究に取り組み、通常授業との教科連携も活用しながら、「思考を深める」ことを目的にしています。研究成果は 12 月の生徒研究発表会や本校以外での研究発表会でも発表しました。

高校 1～2 年生：課題研究の集大成として、自分の進路も意識した課題研究に取り組みました。研究成果をレポートにまとめ、高校 3 年生での志望理由書や A0 入試にも活用しています。

また SS コースでの課題研究は、理科や数学に重点化した内容とし、その成果を研究論文にまとめ、各種研究発表会や学会等で発表しました。

② 高大連携の推進

高大連携をより一層推進するため、安田女子大学、広島大学など近隣の大学との連携を深めています。12 月には安田女子大学を会場に SSH 生徒研究発表会を行い、本校の生徒だけでなく、安田女子大学の学生や台湾姉妹校の生徒も参加した研究発表会を行いました。また広島大学グローバルサイエンスキャンパス事業には、高校 3 年生 5 名が選出され、現在広島大学、広島市立大学などで大学の教員の指導を受けながら、多方面にわたる研究活動に取り組んでいます。

③ 進路観育成と進路保障の取り組み

6 年間を通して生徒が適切な進路設定と主体的学習をおこない、自らの進路実現を可能にしていけるよう取り組んでいます。発達段階により、違った取り組みができるように補習は必ずレベル分けをし、より適切で主体的な学習ができるよう配慮しています。また高等学校入学時から卒業まで、適切で一貫した進路指導をおこない、進路実現ができるよう各学年で下表のような取り組みをすすめています。

	進路観の育成や進路保障に関する主な取り組み
高校 1 年生	オリエンテーション合宿 学部・学科研究 進路講演会 広大・京大・東大へのオープンキャンパス参加 一般大学へのオープンキャンパス参加 大学の出張講座受講 模擬授業（課題研究） 早朝・放課後の補習授業 夏季補習 春季補習 学習合宿 進路面談 教科面談
高校 2 年生	進路講演会 広大・京大・東大へのオープンキャンパス参加 大学の出張講座受講 早朝・放課後の補習授業 夏季補習 春季補習 学習合宿 進路面談 教科面談
高校 3 年生	進路講演会 早朝・放課後の補習授業 夏季補習 春季補習 学習合宿 進路面談 教科面談

④ 牛田総合グラウンドの活用

白島再開発の第一歩として、白島キャンパスの北に 400m 陸上競技トラック、テニスコート 5 面などを有する牛田総合グラウンドが完成しました。日常の体育の授業はもとより、放課後のクラブ活動においても有効な活用をしています。

⑤ 教員研修の充実

生徒の思考力・判断力・表現力の向上が社会的な要求となる中で、本校においては「クリティカルシンキング」を思考力育成の柱とし、生徒の思考力の向上を目的とした授業改善の研究をしています。その中で9月には研究授業週間を設定し、全教員が公開・研究授業を実施しました。この取り組みでは安田女子大学の教職センターとも連携し、将来教員を志望する大学生も多く参加し、また最終日には外部から講師を招いてクリティカルシンキングについての講演と講評をいただきました。

⑥ 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期・長期留学などを実施することにより、異文化体験をし、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。

A. ニュージーランド・ダニーデン市の姉妹校オタゴ女子高校への語学研修・留学

a. 夏期海外研修

期 間 平成 28 年 7 月 28 日～8 月 13 日 17 日間

参加者 高校 1 年生 30 名

引率者 石田教諭、佐々木教諭

b. 1 年間留学

参加希望者なし

c. ニュージーランド 3 ヶ月留学

期 間 平成 28 年 7 月～10 月

参加者 高校 1 年生 2 名

B. 台湾蘭陽市の姉妹校国立蘭陽女子高級中学校との交流

a. 課題研究での発表交流(国立蘭陽女子高級中学校訪問)

期 間 平成 28 年 9 月 11 日～14 日

参加者 7 名

引率者 川本教諭、岸田教諭

b. 課題研究での発表交流(国立蘭陽女子高級中学校の生徒が来校)

期 間 平成 28 年 12 月 8 日～11 日 2 名(教員) 6 名(生徒)

※SSH 生徒研究発表会(安田女子大学)への参加

*SSH 研究成果発表会への参加

*宮島での自然科学フィールドワーク実施

(3) 安田小学校

① 教師力を高める研修(学力と品格を高める安田の教育をめざして)

A. 授業力向上プログラム

教員の授業力向上をめざし、話す・聞く力を使って思考を高める授業研究を全教員で行いました。教科ごとにチームで教材研究と研究授業案を考え、代表者が研究授業を行い、その後、研究協議会を行いました。3年計画の2年目にあたり、教員の共通認識のもとで研究研修が行われたことにより、児童の思考の高まりが発言やノートに見られました。

B. 生徒指導力向上プログラム

教員の生徒指導力向上プログラムを年2回実施しました。いずれも安田女子大学心理学

部教授澤田英三先生と同講師橋本博文先生を講師に「第3回生徒指導を支える心理学的理解」(夏休み研修会)、「第4回生徒指導を支える心理学的理解」(冬休み研修会)を行いました。3年計画の2年目にあたり、日常の教員の指導が心理学的知見に基づいたものになってきました。

② 一貫校としての取り組み

A. 幼稚園・小学校の連携

安田小学校独自の教科「くすのき」の学習で、1年生は短大付属幼稚園の年中園児を招いて12月に「あそびの広場」を実施しました。2年生は大学付属幼稚園の年長園児を招いて6月に「おもちゃ祭り」を実施しました。4年生は短大付属幼稚園の年長園児を招いて10月に読書交流「おはなし広場」を実施しました。

B. 大学・小学校の連携

土曜日の授業では、授業補助として学生ボランティアを募り、算数・国語を中心に指導を行いました。また、2月には5年生を対象に管理栄養学科の学生による食育教室を実施しました。

C. 中学高等学校・小学校の連携

2月に5年生が高校SSクラスの生徒によるサイエンス教室に参加しました。3月には4年生が中学自然科学探究コースの生徒によるサイエンス教室に参加しました。

③ 保護者との連携

年11回、保護者会パパ倶楽部の方が毎回30名前後来校され、朝のあいさつ運動(ハロープロジェクト)を実施されました。また、1年生および2年生の茶道教室や4年生の高齢者疑似体験など体験活動で保護者ボランティアの方にお茶の準備や片付け、装具の装着の手伝いをしてもらい、指導の効果が上がりました。

④ 図書館教育の取り組み

子どもの心を耕し、学力を支える図書館教育を実践しています。「ブックトーク」「ストーリーテリング」「読み聞かせ」「パネルシアター」「読み合い」「アニマシオン」「読書会」などの読書指導や「分類番号」「図鑑と百科事典の使い方」「調べ学習」などの利用指導を図書の時間や特別活動で行いました。パスファインダーを用いて図書資料とICTを併用した調べ学習も行いました。また「リーディング・ビジット」「読書郵便」「ブックチャレンジ」「親子読書」「朝の10分間読書」「読書祭り」「リーディングタイム」などを通して、図書館教育の充実に取り組みました。

⑤ しつけ指導

書籍『安田式しつけ教育』に基づき、「第2章 学校のしつけ」と「第3章 授業のしつけ」について月ごとに目標を立てて指導しました。「第1章 家庭のしつけ」は保護者にお願いし、しつけ指導を行いました。

⑥ 安全指導・安全対策

A. 登校・下校指導

1年生と2年生は交通安全教室を行いました。また、土曜日や学校行事の下校時、学校

の周りに立ち、児童の安全と迷惑をかけない態度について指導しました。

B. 下校方面別指導

年2回下校方面別の話し合いを持ち「危険な箇所」や「子ども110番の家」の確認をするなど、危険回避能力の向上を図りました。

C. 防犯教室

12月に携帯会社の方に来ていただき、防犯教室を実施しました。

D. 防災訓練

4月に防災知識と避難方法を学習し、訓練を年3回実施しました。

⑦ 多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

A. 体験活動

- a. 4・5年スケート教室
- b. 6年スノーボード教室

B. 宿泊学習

- a. 3年山の学習1「もみのき森林公園」6月2日から1泊2日
- b. 4年山の学習2「帝釈峡・吾妻山」7月20日から2泊3日
- c. 5年海の学習「蒲刈・県民の浜」7月28日から1泊2日
- d. 5年まほろば学習（京都で日本の伝統文化体験学習）10月19日から2泊3日
- e. 6年山の学習3「島根県三瓶山一帯」7月20日から3泊4日

C. 鑑賞会・特別授業

「一流のものを鑑賞させる」内容を選定しています。

a. 鑑賞会

全学年6月に広島交響楽団による演奏会を鑑賞しました。

1、2年生が2月に人形劇を鑑賞しました。

b. 音楽鑑賞教室

2年生以上の学年で音楽鑑賞教室を行いました。

- ・2年生 打楽器鑑賞教室
- ・3年生 金管楽器鑑賞教室
- ・4年生 木管楽器鑑賞教室
- ・5年生 弦楽四重奏鑑賞教室
- ・6年生 フォルクローレ鑑賞教室

c. 劇団四季によるミュージカル鑑賞

6年生が12月に劇団四季によるミュージカルを鑑賞しました。

d. 特別授業

5年生は5月に朝日新聞社講師による授業「新聞記事の作り方」を受けました。

⑧ グローバル人材育成プログラム

A. オーストラリア海外学習

平成29年3月19日から3月30日までの春休み12日間、オーストラリア・アデレード郊外で海外研修（4・5年希望者対象）を実施しました。参加した4年生16名・5年生2名は、1名1家庭でホームステイ生活を経験しました。そして、姉妹校のRedeemer Lutheran

小学校で児童との交流授業・英会話学習などを行いました。また、シドニーのオペラハウス・ロックス地区・ダーリングハーバー見学など、外国での生活や見聞を通して異文化理解を深め、他国の人も積極的に関わっていく姿勢を身につけました。

B. 姉妹校との交流学习

2年生は12月にRedeemer Lutheran 小学校の2年生からクリスマスカードを受け取り、そのお返しに安田小学校から年賀状を送り、読みあいました。

5年生は5月にRedeemer Lutheran 小学校の5年生から日本語で書かれた手紙を受け取り、安田小学校からは英語で手紙を送りました。これは、安田とRedeemer Lutheranの児童のペア活動としての取り組みで、この間、手紙を送った相手とSkypeで自己紹介をしました。また、9月には、お互いが質問状を送り、その返答をSkypeで行いました。

C. その他の国際理解学習

1、2年生はハロウィンパーティーを通して英語圏の文化を体験しました。3年生は学園のネイティブ英語教師に宮島のもみじまんじゅうやお好み焼き、平和公園など広島について英語で伝え、ネイティブ教師からは出身国について教えてもらう授業を行いました。同様に4年生はギニアの方から民族音楽の太鼓や歌の演奏を聴き、ダンスを交えて一緒に演奏しました。6年生は平和学習の一環で、原爆投下から復興するまでを理解し、広島市立大学の先生から原爆についてアメリカ人の考え方を聞き、平和のためにできることを考えました。また、社会科の授業で国際問題を解決するための国連とNGOの働きを学び、自分には何ができるか考えました。

D. 英語プログラム

英語を学び、使う機会を作ることを目的に、English Campを実施しました。夏休みに4年生が、冬休みに3年生が約20～30名参加し、英語の授業を受けました。

英語の授業を1年生～3年生までは週1時間から週2時間(年間70時間)に増やし、全学年の英語テキストを一新し、授業の充実を図りました。「英語といえば安田小学校」と言われるように児童の英語力を上げるよう今後も改善していきます。

⑨ 保護者支援

A. 携帯電話の持たせ方

KDDI(株)から講師を招き、新入生の保護者対象の講演会を行いました。携帯を持たせる上での注意点や心構えを話してもらい、保護者への啓蒙を図りました。

B. 学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として学校カウンセラーを採用しました。数名の保護者が継続して利用されました。

C. アフタースクール

放課後の預かりとして、ホームクラスでは宿題や読書、校庭や室内での遊びを行いました。また、英語やそろばん、体操、サッカーなど知識や技能を培うスタディコースを実施しました。年々利用が拡大し全家庭の8割が利用登録しています。

D. デリバリー弁当の改善

業者と協力し、保護者対象試食会を行いました。業者から食材はすべて国産を使用しているなどの説明があり、量や味、食材について保護者から意見をいただきました。保護者から出た意見を生かした弁当作りに役立つ取り組みでした。また、年2回保護者と児童参

加の農業体験を業者の自社農場で実施しました。

⑩ 児童募集

A. 6月学校公開

6月11日(土)に、本校の教育に興味を持たれている方を対象に学校公開を実施しました。2校時に授業参観をすべてのクラスで行いました。3校時は保護者の方に学校紹介を聞いていただき、園児は6年生企画による折り紙・ゲーム・お絵かきなどをして楽しみました。

B. 児童募集説明会

9月22日(祝)実施。学校説明と入試説明。アンケート回答160名。

C. 園児面接(入学試験)ー新入児童募集定員80名ー

面接：平成28年11月1日<女児>・2日<男児>

募集定員80名に対して、応募者数145名(受験者数145名)。

(4) 安田女子大学付属幼稚園

① 保育・研究活動

A. 重点目標「意欲的に環境にかかわり、自分なりのめあてをもって遊びに取り組む子どもの育成～教師の援助を考える～」への取り組み

平成28年度は、同じ重点目標による2年次の取り組みとし、昨年の環境に続いて、人的環境である教師の援助を考えることを学校評価として掲げました。教師が一人一人の育ちを把握しながらかかわりを考えていくことで子どもたちの生活する力や自分で考えて意欲的に行動する力を育てたいと願い、研究保育や本大学の准教授を招聘しての園内研修も行いました。年度末のアンケートも99%の回収率で子どもたちの育ちや園の取り組みについて高い評価をいただきました。

B. 教員の指導力向上を目指して

a. 合同ワークショップ研修会開催

短大付属幼稚園と合同で、長期休業中である夏休みと冬休みに「教員合同研修会」を開催しました。1回目は、本園の課外教室の絵画講師に絵の具を使用した色遊びの指導を受け、イメージに捉われず自由に描く楽しさを味わいました。2回目は、同じく本園の課外教室の運動遊び講師に運動遊びの実技指導と講義を受けました。楽しく身体を動かしながら、瞬時に判断して動ける身体を作るためのプログラムを学びました。こうした合同での研修会を今後も継続していきます。

b. 園内研修会の充実

昨年に引き続き、本大学の学生の卒論研究と並行して、子どもの行動観察と教師の援助について児童教育学科と心理学科の准教授に指導を受ける園内研修を行いました。担任だけでなく、全教員で子どもたち一人一人を見守っていく園のスタンスから子どもの行動の意味を理解し、環境や援助についての問題点を共有できたことは、大きな学びとなりました。

② 図書教育の推進

A. 絵本の貸し出し

在園児や保護者にとって絵本の貸し出しは、家庭での読書活動を充実させるためのよい機会となっています。“絵本ノート”を作り、子どもがどのような絵本を借りてどのような

感想をもったかなど園と家庭で共有できるようにしています。

B. 「お話しタイム」「リーディングタイム」の継続

園長が各クラスを訪れて絵本の読み聞かせをする「お話しタイム」を月曜日は年長組・木曜日は年中組・金曜日は年少組と継続して実施しています。年長組や年中組では「お話しタイム」の前に「音楽タイム」の時間も設け、言葉と音楽の両方で「聞く」「聴く」という機会も作っています。また、毎週火曜日は全園児を対象に英語の先生による英語の絵本の読み聞かせを継続して実施しています。「リーディングタイム」という言葉も子どもたちの間に定着してきました。各クラスでもほぼ毎日、絵本や紙芝居などの読み聞かせを行っており、子どもの情操を豊かにし、聞く態度の形成にもつながる活動を積み重ねています。

③ 保護者教育の推進

A. 園長主催の専科

保護者にも子どもと同様の体験をしながら学ぶ楽しみをもち、子ども理解につなげて欲しいと願い、「遊びま専科」「話しま専科」を継続実施しています。

6月に開催した「遊びま専科」は21名の参加があり、新聞紙を使った遊びの紹介とグループに分かれて協同で新聞の洋服を作りました。1月に開催した「話しま専科」では、これまでと同様に、気軽にお茶を飲みながらグループで子育てに関する悩みを話したり、本大学の准教授からのアドバイスを聞いたりしました。

B. 子育て講演会の開催

7月の第1土曜日に在園児保護者と親子登園に参加された未就園児保護者を対象に「子育て講演会」を実施しています。平成28年度は、「子どもの将来につながる運動遊びについて」と題して、今年度から保育の中や課外教室でも取り入れている「サッカー運動遊び」の講師である住本幸治先生の講演を聞きました。実際に活動している本園の子どもたちの映像や理論の裏付けの話と共に関心を持って家庭で簡単にできる親子での運動遊びの紹介もあり、すぐに実践できる内容が好評でした。

④ 自然体験

4月は田んぼに咲くレンゲで遊び、5月は泥田遊び、田植えなど本園の北側にある田んぼや畑では、年間において楽しい遊びや収穫体験ができます。昨年からは学年ごとに収穫する野菜と全学年が収穫する野菜を分けたところ、畑の調子も良好で、収穫物も豊作でした。

⑤ 一貫校としての取り組み

A. 短大との幼児体育の授業の継続実施

付属幼稚園の教諭と短大保育科との人事交流が継続されており、今年度も幼児体育Ⅰの授業を本園で実施する計画とし、6月に体操や鬼ごっこ、11月にはサーキット遊びなどを行いました。園が行う運動遊びと共に、学生たちが考え、工夫した活動の提供は、子どもたちにとって良い刺激を受ける機会となっています。

B. 安田学園記念館見学

大学1号館の2階には、安田学園の歴史を紹介する記念館があり、創立記念日の前に全学年が訪れました。学園の歴史年表とともに数々の写真や資料が展示されており、安田リョウ先生や五一先生の功績を知るよい機会となりました。自由に見学ができるため、保護

者にもぜひ訪れて欲しい場所です。

C. 小学校との連携

安田小学校の「くすのき」の授業の中で6月に「おもちゃ祭り」が実施され、2年生と年長児との交流を行いました。3クラスに分かれ、お兄さん・お姉さんから“ばねバッタ”や“ストローとんぼ”の作り方や遊び方を教えてもらい、その後一緒に弁当を食べ、一貫校である小学校に親近感や安心感を覚えることができました。

⑥ 地域との交流

A. 保・幼・小との交流

毘沙門台・筒瀬小学校区の保・幼・小連携推進委員会に参加し、毘沙門台小学校との交流も7年目となりました。今年度は、“サムエル親愛の園”の公開保育に4名が参加しました。2月には、毘沙門台小学校を年長児が訪問し、就学に向けての不安を排除し、期待を膨らませる機会となりました。

B. 中学生の職場体験

安佐中学校・安西中学校の他に今年度は、安佐南中学校からの依頼がありました。年間を通して33名（男子7名、女子26名）の生徒を受け入れました。安佐中学校の生徒には、本大学の教授が広島県教育委員会と共に行っている“「親の力」をまなびあう学習プログラム”に参加してもらいました。社会全体で子どもの成長を支えていく必要性を感じた機会になったようでした。

⑦ 子育て支援事業

A. 休日園開放「幼稚園であそぼう」

今年度は、3日間に増やして実施し、延べ209組の参加者がありました。本学の准教授と学生による“人形劇や楽器作りのプログラム”の回もあり、付属ならではの活動を楽しんでいただきました。

B. 園開放・園庭開放

今年度は、園開放の回数を6回とし、延べ192組の参加者がありました。園庭開放は、年8回土曜日に計画しましたが、雨天中止の日もあり実質7回の実施となりました。延べ285組の参加者があり、昨年より参加者が増えています。

C. 2歳児親子登園

今年度は、親子登園の実施日を9月まで伸ばし、幼稚園への入園を考えていただける機会となるようにしました。30回実施し、6グループ16組の5回コースで延べ443組の参加がありました。

D. オープンスペースの実施

2階のキッズルームを予約制にして遊びの場を提供してきましたが、今年度から新たに予約なしで提供できる日を提示し、自由に遊びに来ていただけるオープンスペースとして開放しました。18回実施し、0歳から2歳前までの乳幼児親子延べ195組の参加者があり、園長や本大学の准教授による子育て相談も8回行いました。

⑧ 子育て支援の充実

A. 大学・短期大学の施設“Sophia”での預かり保育開始

保育時間後の預かり保育と7時45分からの早朝保育や17時から19時までの延長保育を

継続して実施していますが、11月1日からアストラム安東駅前にある大学・短期大学の施設“Sophia”で、早朝保育と延長保育を開始しました。近くに駐車場もあり、保護者も利用しやすくなりました。預かり保育専任教諭と専門職員が担当しています。11月1日からの利用者は99日間で早朝保育利用者は、延べ119人、1日平均1人で17時以降の延長保育利用者は、延べ641人で1日平均6人でした。

また、平成28年度長期休業中の利用者は、全44日の実施日で、延べ939人、1日平均21人でした。通常保育中を含めた年間を通しての預かり保育利用者は、実施日が228日で、延べ4,365人、1日平均19人でした。

B. 課外教室の充実

* () は対象者

幼稚園の保育終了後の課外教室は、アンケートによる保護者の希望を踏まえ、平成28年度から課外教室を4教室増設し6教室となりました。新教室は、硬筆22名(年長児)、絵画19名とダンス9名(年中児と年長児)、11月からは年少児から入会できるサッカー運動遊び教室が加わり、年少15名、年中19名、年長11名の参加者がありました。課外教室の選択肢が増え、保育終了後、慣れている園で友達と一緒に安心して参加できることが魅力となっています。

⑨ 情報発信

幼稚園紹介の要であるホームページのリニューアルを行い、3月17日に公開しました。“在園児保護者に向けて”や“未就園児保護者に向けて”の情報をまとめ、これまでよりも知りたい情報を素早く見ることが可能になりました。次年度は幼稚園案内を一新し、ホームページと共に幼稚園の魅力を広く発信していく予定です。

(5) 安田女子短期大学附属幼稚園

① 保育研究活動

A. 重点目標と学校評価

昨年に続き、今年度の重点目標を「4つの柱を通してやさしい心たくましい力を育成する」と決め、各柱に1つずつ自己評価の視点を決めて指導に努め、併せて学校評価に取り組み保護者の評価を受けました。4つの視点を、心通うあいさつは「挨拶」、自然とのかかわりは「季節の変化」、友達いっぱい「運動遊び」、おはなし広場は「読み聞かせ」としました。どの項目も保護者評価は高いものでした。自園評価では季節の変化を感じさせる体験活動、英語の絵本の読み聞かせに課題が残り、次年度、意識改革や教材研究など改善への努力をしていきます。

B. 教員研修ワークショップ

理論と実技を通して指導の幅を広げることを目的に、大学附属幼稚園の教員と共に、長期休業中を利用してワークショップを実施しました。

夏休みは、絵画教室講師の川口彩先生にご指導いただき、3原色の絵の具を塗り広げた上に、いろいろな材料を加えてイメージを広げ、一人一人が個性的な作品を作りました。

冬休みには、特別非営利法人スポーツクリエイション指導スタッフ代表の住本幸治先生による、運動遊びの講義と実技に参加しました。

ワークショップでの学びを、日々の保育に活かしています。

② 読書活動の充実

A. 読み聞かせ

毎週月曜日、図書室で園長と英語の先生による読み聞かせ「おはなし広場」を今年度も継続しました。年間 28 回実施し、年少組に 56 冊（内、英語の絵本 28 冊）、年中・年長組に 84 冊（内、英語の絵本 28 冊）の絵本を読みました。

各学年とも、クラスでの日々の読み聞かせや月間絵本の活用にも力を入れてきました。今年度も、月 2 回図書サポートの保護者が来園して読み聞かせをしてくださり、園児が楽しみにする時間になりました。

B. 絵本の貸し出し

保護者の絵本の貸し出しへの関心は高く、今年度も継続しました。家庭での読み聞かせでは、借りた絵本の題名や作者、子どもの感想などを、保護者に依頼し「絵本カード」に記録してもらっています。読み聞かせが父親の担当になっている家庭では、絵本カードの記録も父親がされています。

C. 家庭読書アドバイザー依頼

毎年、園長による、保護者を対象にした読み聞かせの講座を開催していますが、今年度は、広島市子ども図書館から派遣される家庭読書アドバイザーを依頼しました。27 名の保護者と 5 名の在園児の弟妹の参加があり、アドバイザーによる読み聞かせや講話を聞かれ、読み聞かせの大切さを再確認される良い機会となりました。

③ 自然体験

今年度も安佐南区上安の観察農園で、4 月末から 5 月初旬にいちご・スナップ豆の収穫と 6 月に玉ねぎ・じゃが芋の収穫と、サツマイモの苗植え、10 月・11 月にさつま芋と 12 月に大根の収穫、2 月末にジャガイモの種芋植えを体験しました。また、安東キャンパス内の田んぼで 5 月に田植え、9 月に稲刈りを行いました。

保護者会役員の協力を得て、収穫した野菜でカレーや豚汁会食、もち米で餅つきを行い、食への関心を深める活動になっています。また、自然の恵みや管理してくださる方々への感謝の気持ちも育まれます。

④ 一貫校としての取り組み

A. 小学校との交流

今年度も、小学校との交流の場をもち、年長組は、10 月 28 日に 4 年生による読み聞かせ「おはなし広場」に招待してもらい、ペープサート劇や、パネルシアター、絵本の読み聞かせなどしてもらいました。年中組は、12 月 1 日に 1 年生の「あそびの広場」に招待してもらい、手作りの玩具で一緒に遊びました。小学生との体験は、就学の期待につながるだけでなく、異年齢で交流することで相互に思いを寄せ合う意義ある体験になっています。

B. 中学・高等学校との交流

毎年、幼児教育に関心のある高校生が、夏休みの預かり保育日に参加しています。今年度は、23 日間の預かり日のうち、12 日間参加し延べ 180 名の生徒が、午前 9 時から午後 4 時まで園児と関わったり行事の準備を手伝ったりしました。昨年度は 10 日間で 127 名の参加でしたので、希望する生徒が増えています。

また、11 月には中学校 3 年生 187 名の生徒が、家庭科の授業で幼児の生活や成長について学習するため園児の生活を見学しました。

これらの体験が、保育士や幼稚園教諭志望につながることもあるようです。

⑤ 防犯・安全

白島キャンパス合同避難訓練

今年度も幼稚園・小学校・中学校・高校と白島キャンパス内の学校が合同で、地震を想定した避難訓練を5月19日に実施しました。園児にとっては訓練でも大きな不安を伴いますが、1対1で生徒が誘導して避難してくれることで、園児の不安は和らぎ、生徒も若い園児を思いやる気持ちが膨らんでいました。

⑥ 石巻市の被災幼稚園との交流

平成23年3月の東日本大震災発生後の夏から、被災された石巻市の渡波学園 万石浦・長浜幼稚園のために、保護者と協力し継続した支援を行っています。

夏休みに開催した夏祭りで集めた絵本213冊と、9月の保護者会のバザー収益金から義援金を送りました。

この他、卒園のお祝いに園児手作りのキーホルダーを贈るなど、遠く離れた友達と心を寄せ合う交流は、有意義なものになっています。

復興が進み、平成29年度には新園舎が完成との朗報も届きました。

⑦ 子育て支援の充実

A. 預かり保育

* () は前年度

就労している保護者が安心して預けたり、広範囲から通園する園児の遊びの場として利用したりできるよう、3名の預かり専任教諭と専門職員がサポートに入り、預かり保育を実施しています。

早朝保育利用は年間延べ1,518人(1,107人)が利用、通常保育時間後から午後5時までの預かりは延べ6,950人(5,782人)が利用し、1日平均人38人(34人)でした。17時から18時までの延長預かりは延べ849人(755人)が利用し、19時までは延べ54人(36人)の利用がありました。

今年度も引き続き17時から幼稚園と小学校の専任教諭が担当し、幼稚園で安田小学校の児童と合同延長保育を実施しています。

長期休業日(春休み・夏休み・冬休み)の預かりは、年間45日実施し、延べ1,492人(1,218人)の園児が利用しました。そのうち、早朝預かりは延べ305人(188人)、延長預かりは94人(78人)、このうち5人が午後7時まで利用しました。

2学期から、行事の振替休日の預かり保育を開始し、利用は保護者の就労に限定しました。9月の文化まつりの振替休日には19人、10月の運動会の振替休日には13人の利用がありました。

預かり保育の利用は、今後も増加傾向が予想されます。

B. 課外教室

昨年11月から課外教室を増やし、今年度は英語・音楽・体育・バレエ・硬筆・サッカーの6つの課外教室を行っています。

英語、音楽、体育、バレエは全学年募集し、英語17人、音楽5人、体育31人、バレエ44人が参加しました。サッカーは、年中組と年長組が対象で18人、硬筆は年長組対象で23人の参加がありました。

通常保育後、慣れた場所で好きな課外教室が選べ、音楽以外は保護者同伴ではないことから、共働きの家庭の園児も参加でき、参加者が増加傾向にあります。

C. 親子登園・園開放・園庭開放 * () は前年度

今年度も2歳児を対象にした親子登園と休園日の園開放、1歳児からを対象にした園開放と園庭開放を実施し、未就園児親子に遊びの場を提供し、地域の子育て支援センターとしての役割を担ってきました。

1年間の実施回数、参加者は下記の通りですが、すべて増加しています。

- ・親子登園：50回、10グループ延べ160組の親子（159組）
- ・休園日の園開放：3回、延べ213組の親子（2回で154組）
- ・開園日の園開放：2回、延べ64組の親子（42組）
- ・園庭開放：11回、292組の親子（269組）

⑧ 施設・設備

白島キャンパスにある全校（園）の建て替えが決まり、新構想に向けての会議が9月から始まりました。幼稚園は、現在の園舎の道路向かいに、平成30年3月末に新園舎が完成する予定です。そのため1月から、新園舎の建設用地の元国税局官舎（鉄筋5階建て）が取り壊され3月には更地になりました。平成29年4月から、建設が始まります。

(6) 安田学園セミナーハウス

宿泊もできる研修施設を設置することにより、幅広く教育活動の場を提供できる「安田学園セミナーハウス」として平成23年8月に開設し、6年目を迎えました。

利用団体サービス向上のため、初めての利用者へのいろいろな心配りを心がけ、開錠・閉錠時にはゴミ処理・各部屋の点検を兼ねて、直接利用者の感想や意見を聞いています。

また、利用者や業者とは迅速、確実にメール・電話の対応、ケータリングの仲介手続きを行い、清掃・衛生面を徹底し、快適に研修・学習合宿等が行われるよう環境を整えました。

夏季休暇中は、毎週利用があり長年のリピーターも多く、10月からは、旧事務職員の同窓会、高校2年生学習合宿、高等学校SSHグローバル合宿、教職員有志の懇親会、センター試験に向けての高校3年生学習合宿、大学ゼミ合宿、大学サークル・同好会合宿等と多くの団体の利用が続き、特に新規利用者には大変好評でした。

2月は、大学薬学部为国家試験対策のため6年生65名の講習会が行われ、その内、遠方からの学生9名の2泊3日の合宿が入りました。試験合格に向けた取り組みを円滑に指導され、参加者全員の合格を目標に、それまでの勉強の締めくくりとして3日間の学習が行われました。

今年度の利用実績は、延べ人数531名、団体数21件でした。今後は大学をターゲットにゼミ合宿・同好会合宿・クラブ合宿など、大学の行事予定等をリサーチし大学学生課との情報交換を密にして、新規利用者、リピーターを増やしていく取り組みを継続していきます。

(7) 安田学園創立100周年記念事業

記念事業は、平成24年4月の100周年記念事業推進企画委員会において、「建学の精神」の継承と、次の100年に向けた活動のステップを、それぞれ次のように位置づけて事業を行いました。

ステップ1 平成25年・平成26年は、学園の歴史を残し後世に伝える

ステップ2 平成26年・平成27年は、建学の精神を深め共有する期間

ステップ3 平成27年・平成28年は、未来に向けて建学の精神を継承し、外部にメッセージを発信していく期間

今年度は、ステップ3の最終事業として次の事業を行いました。

『安田学園 百年史』発行

平成24年度から開始した百年史の編纂作業は、定期的に編集会議を開催し編集作業を行い、「通史編」「校史編」の二分冊として安田学園100年を記述しています。各校園の中身の統一を図りながら内容も充実させ、何度も分量調整を行うとともに、学園史の体裁を整えるために欠かすことのできない項目、題字の決定・口絵写真の選択・挨拶文や編集後記文の執筆依頼等の検討及び作業を行いました。1,800ページ余の大作となり、学園史が完成したのは平成28年11月になりました。

また、配布先については、90周年学園史の時と同じように、学園関係者・地域の各校園・教育関係などいろいろな方面の方々に送りました。

これをもって100周年記念事業すべての活動を終了しました。

Ⅲ. 財務の概要

今年度の資金収支について、収入総額は、176億2,021万9千円、支出総額は173億6,429万9千円となり(収支とも繰越支払資金を除く前年比では、収入はH27年度の私学事業団からの借入金等収入の影響で23億2,152万4千円減少し、支出は資産運用支出の減少により30億368万3千円減少した。

科目の内訳では、新設学科の開設・学年進行等により学生数が増加し、学生生徒等納付金収入は4億1,665万1千円の収入増となり、一方で教員数増加等で人件費支出は2億481万1千円の支出増となった。

事業活動収支は、事業活動収入計が94億8,292万円、事業活動支出計が79億2,117万9千円となり、基本金組入前当年度収支差額が15億6,174万1千円の収入超過となり、基本金組入後の当年度収支差額は△12億8,760万7千円となった。

貸借対照表の資産の部合計は、前期末より16億4,881万3千円増加し476億5,778万8千円となった。また基本金は、第1号・第4号の基本金組入により28億680万7千円増加し、454億7,763万6千円となった。

平成29年3月31日現在において、資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産は、423億2,099万8千円である。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。

- 安東キャンパス新1号館建設工事費(15億7,478万円)
- 安東キャンパス新1号館設計監理委託費(538万円)
- 安東キャンパス1・2号館解体工事費(1億2,949万円)
- 安東キャンパス新1号館設備整備(3億4,531万円)
- 安東キャンパス通学路整備工事(3,982万円)
- 白島キャンパス牛田グラウンド整備費(7億5,000万円)
- 白島キャンパス牛田グラウンド整備に伴う什器・機器備品(2,676万円)
- 白島キャンパス中高 AV装置・プロジェクター更新(5,086万円)
- 白島キャンパス短幼新園舎建設用地(7億7,261万円)

1. 資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減
学生生徒等納付金収入	6,078,278	6,271,682	6,531,783	6,872,496	7,289,147	416,651
手数料収入	98,935	106,988	116,739	89,379	92,391	3,012
寄付金収入	12,823	44,165	54,655	17,762	33,660	15,898
補助金収入	962,319	977,592	1,504,904	1,376,057	1,176,915	△ 199,142
国庫補助金収入	354,176	379,276	852,829	738,515	525,215	△ 213,300
地方公共団体補助金収入	607,643	597,816	651,575	637,042	650,000	12,958
学術研究振興資金収入	500	500	500	500	1,700	1,200
資産売却収入	13,723,505	16,271,263	10,824,137	5,065,390	6,940,600	1,875,210
付随事業・収益事業収入	63,874	66,057	78,156	85,157	87,681	2,524
受取利息・配当金収入	655,291	610,290	874,084	444,671	468,132	23,461
雑収入	202,456	170,542	117,683	260,144	159,800	△ 100,344
借入金等収入	0	0	0	2,700,000	0	△ 2,700,000
前受金収入	1,098,204	1,237,964	1,283,284	1,372,248	1,486,965	114,717
その他の収入	130,332	622,280	217,328	3,323,233	1,371,940	△ 1,951,293
資金収入調整勘定	△ 1,144,261	△ 1,208,508	△ 1,686,813	△ 1,664,794	△ 1,487,012	177,782
小計	21,881,756	25,170,315	19,915,940	19,941,743	17,620,219	△ 2,321,524
前年度繰越支払資金	4,494,895	4,644,704	4,105,415	4,862,559	4,436,320	△ 426,239
収入の部合計	26,376,651	29,815,019	24,021,355	24,804,302	22,056,539	△ 2,747,763

支出の部	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度増減
人件費支出	3,815,761	3,720,707	3,950,337	4,254,335	4,459,146	204,811
教育研究経費支出	1,046,559	1,312,119	1,269,396	1,444,042	1,568,347	124,305
管理経費支出	327,011	370,882	397,448	352,853	435,455	82,602
施設関係支出	171,961	3,397,470	2,971,425	3,779,203	3,450,118	△ 329,085
設備関係支出	168,425	442,674	187,938	319,014	533,186	214,172
資産運用支出	16,234,342	16,436,571	10,374,319	10,149,996	6,891,219	△ 3,258,777
その他の支出	24,535	57,226	28,945	104,329	114,471	10,142
資金支出調整勘定	△ 56,647	△ 28,045	△ 21,012	△ 35,790	△ 87,643	△ 51,853
小計	21,731,947	25,709,604	19,158,796	20,367,982	17,364,299	△ 3,003,683
次年度繰越支払資金	4,644,704	4,105,415	4,862,559	4,436,320	4,692,240	255,920
支出の部合計	26,376,651	29,815,019	24,021,355	24,804,302	22,056,539	△ 2,747,763

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

2.事業活動収支計算書の推移

(単位:千円)

科 目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年度 増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	6,078,278	6,271,682	6,531,783	6,872,496	7,289,147	416,651
		手数料	98,935	106,988	116,739	89,379	92,391	3,012
		寄付金	12,823	17,165	54,655	14,762	33,660	18,898
		補助金	948,223	957,512	1,100,152	1,108,025	1,165,300	57,275
		国庫補助金	340,080	359,196	457,774	472,038	513,600	41,562
		地方公共団体補助金	607,644	597,816	641,878	635,487	650,000	14,513
		学術研究振興資金	500	500	500	500	1,700	1,200
		付随事業収入	63,874	66,057	78,156	85,158	87,681	2,523
		雑収入	204,630	182,329	142,528	277,959	207,725	△ 70,234
		教育活動収入計	7,406,763	7,601,733	8,024,013	8,447,779	8,875,904	428,125
	支事業の活動部	人件費	3,808,898	3,722,633	3,974,152	4,253,972	4,500,429	246,457
		教育研究経費	2,037,913	2,143,493	2,150,329	2,298,164	2,596,353	298,189
		管理経費	351,258	389,650	421,913	380,884	469,691	88,807
		徴収不能額等	0	1	222	123	0	△ 123
教育活動支出計		6,198,069	6,255,777	6,546,616	6,933,143	7,566,473	633,330	
	教育活動収支差額	1,208,694	1,345,956	1,477,397	1,514,636	1,309,431	△ 205,205	
教育活動外収支	収事業の活動部	受取利息・配当金	655,291	610,290	874,084	444,671	468,132	23,461
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	655,291	610,290	874,084	444,671	468,132	23,461
	支事業の活動部	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収支差額	655,291	610,290	874,084	444,671	468,132	23,461
	経常収支差額	1,863,985	1,956,246	2,351,481	1,959,307	1,777,563	△ 181,744	
特別収支	収事業の活動部	資産売却差額	0	0	800	1,111	121,158	120,047
		その他の特別収入	15,454	52,201	410,738	277,555	17,726	△ 259,829
		特別収入計	15,454	52,201	411,538	278,666	138,884	△ 139,782
	支事業の活動部	資産処分差額	160,916	36,187	17,302	101,418	354,706	253,288
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	160,916	36,187	17,302	101,418	354,706	253,288
		特別収支差額	△ 145,462	16,014	394,236	177,248	△ 215,822	△ 393,070
	基本金組入前当年度収支差額	1,718,523	1,972,260	2,745,717	2,136,555	1,561,741	△ 574,814	
	基本金組入額合計	△ 1,531,431	△ 3,081,228	△ 2,751,150	△ 1,241,559	△ 2,849,348	△ 1,607,789	
	当年度収支差額	187,092	△ 1,108,968	△ 5,433	894,996	△ 1,287,607	△ 2,182,603	
	前年度繰越収支差額	△ 2,434,058	△ 2,110,349	△ 2,933,281	△ 2,827,097	△ 1,911,571	915,526	
	基本金取崩額	136,617	286,036	111,617	20,530	42,540	22,010	
	翌年度繰越収支差額	△ 2,110,349	△ 2,933,281	△ 2,827,097	△ 1,911,571	△ 3,156,638	△ 1,245,067	

(参考)

事業活動収入計	8,077,508	8,264,224	9,309,635	9,171,116	9,482,920	311,804
事業活動支出計	6,358,985	6,291,964	6,563,918	7,034,561	7,921,179	886,618

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

3.貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部						前年度
科 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	増減
固定資産	29,857,082	33,376,712	36,138,945	38,020,810	40,581,232	2,560,422
有形固定資産	16,477,750	19,434,987	21,691,904	24,840,881	27,584,542	2,743,661
土地	3,165,093	3,668,685	6,477,540	6,822,317	7,660,616	838,299
建物	9,949,464	12,139,074	11,582,973	11,049,431	15,249,451	4,200,020
その他の有形固定資産	3,363,193	3,627,228	3,631,391	6,969,133	4,674,475	△ 2,294,658
特定資産	13,375,980	13,936,585	14,064,403	12,951,647	12,957,140	5,493
その他の固定資産	3,352	5,140	382,638	228,282	39,550	△ 188,732
流動資産	6,357,248	4,920,076	4,945,935	7,988,165	7,076,556	△ 911,609
現金預金	4,644,704	4,105,415	4,862,559	4,436,320	4,692,240	255,920
その他の流動資産	1,712,544	814,661	83,376	3,551,845	2,384,316	△ 1,167,529
資産の部合計	36,214,330	38,296,788	41,084,880	46,008,975	47,657,788	1,648,813
負債の部						
固定負債	1,033,213	1,023,387	1,022,358	3,704,180	3,697,760	△ 6,420
退職給与引当金	1,033,213	1,023,387	1,022,358	1,004,180	997,760	△ 6,420
その他の固定負債	0	0	0	2,700,000	2,700,000	0
流動負債	1,276,391	1,396,415	1,439,819	1,545,537	1,639,030	93,493
前受金	1,098,204	1,237,964	1,283,284	1,372,248	1,486,965	114,717
その他の流動負債	178,187	158,451	156,535	173,289	152,065	△ 21,224
負債の部合計	2,309,604	2,419,802	2,462,177	5,249,717	5,336,790	87,073
純資産の部						
基本金の部						
第1号基本金	30,356,603	32,098,267	34,814,800	37,212,829	39,995,636	2,782,807
第2号基本金	5,263,472	6,300,000	6,200,000	5,000,000	5,000,000	0
第3号基本金	0	0	0	0	0	0
第4号基本金	395,000	412,000	435,000	458,000	482,000	24,000
基本金の部合計	36,015,075	38,810,267	41,449,800	42,670,829	45,477,636	2,806,807
繰越収支差額の部						
翌年度繰越収支差額	△ 2,110,349	△ 2,933,281	△ 2,827,097	△ 1,911,571	△ 3,156,638	△ 1,245,067
純資産の部合計	33,904,726	35,876,986	38,622,703	40,759,258	42,320,998	1,561,740
負債及び純資産の部合計	36,214,330	38,296,788	41,084,880	46,008,975	47,657,788	1,648,813

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

4. 貸借対照表関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	93.6%	93.7%	94.0%	88.6%	88.8%
2	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金} + \text{組入額}}$	100.0%	100.0%	100.0%	97.8%	97.9%
3	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	85.5%	90.5%	91.2%	85.5%	88.2%
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	17.6%	12.8%	12.0%	17.4%	14.8%
5	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	498.1%	352.3%	343.5%	516.9%	431.8%
6	前受金保有率	$\frac{\text{現金} + \text{預金}}{\text{前受金}}$	422.9%	331.6%	378.9%	323.3%	315.6%
7	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	6.8%	6.7%	6.4%	12.9%	12.6%

5. 事業活動収支計算書関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	21.3%	23.9%	29.5%	23.3%	16.5%
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	75.4%	76.4%	73.4%	77.3%	78.0%
3	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	11.9%	11.8%	16.2%	15.0%	12.4%
4	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	47.2%	45.3%	44.7%	47.8%	48.2%
5	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	25.3%	26.1%	24.2%	25.8%	27.8%
6	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	19.0%	37.3%	29.6%	13.5%	30.0%
7	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	62.7%	59.4%	60.8%	61.9%	61.7%

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

6. 在学生数・教職員数の推移

区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
在学生数 (単位:名)					
大学院	39	38	40	41	33
大学	3,708	3,799	3,859	4,115	4,440
短期大学	547	515	497	396	304
高等学校	681	670	703	728	763
中学校	660	667	644	618	579
小学校	492	488	486	487	484
短期大学付属幼稚園	195	195	187	190	203
大学付属幼稚園	208	208	207	208	195
計	6,530	6,580	6,623	6,783	7,001
教職員数 (単位:名)					
大学	447	452	495	525	572
短期大学	96	81	82	72	34
高等学校	61	65	67	66	69
中学校	57	54	53	51	49
小学校	44	38	41	44	42
短期大学付属幼稚園	18	20	21	22	23
大学付属幼稚園	16	21	22	23	23
その他	7	5	6	5	7
計	746	736	787	808	819

財 務 の 概 要

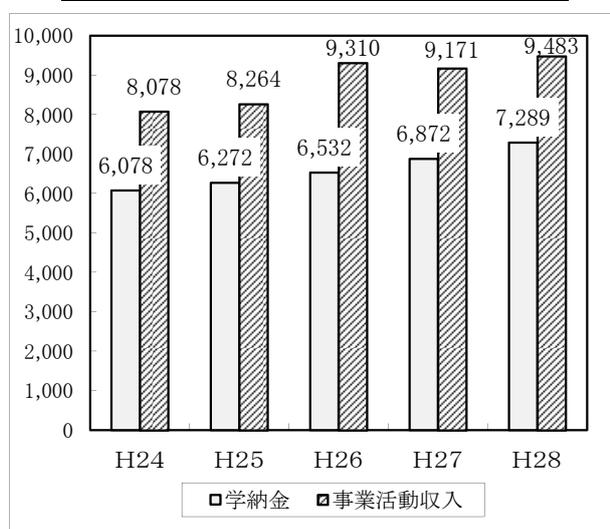
(5年間の財務 経年比較表)

(単位: 百万円)

項 目	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
①学生生徒等納付金	6,078	6,272	6,532	6,872	7,289
②事業活動収入	8,078	8,264	9,310	9,171	9,483
③経常収入	8,062	8,212	8,898	8,892	9,344
④基本金組入額	△ 1,531	△ 3,081	△ 2,751	△ 1,242	△ 2,849
⑤事業活動支出	6,359	6,292	6,564	7,035	7,921
⑥教育研究経費	2,038	2,143	2,150	2,298	2,596
⑦有形固定資産	16,478	19,435	21,692	24,841	27,585
⑧総 資 産	36,214	38,297	41,085	46,009	47,658

※ 学校法人会計基準の改正に伴い一部の科目が変更となりました。過年度分も新基準の科目に置き換えて記載しています。

学生生徒等納付金及び事業活動収入の推移

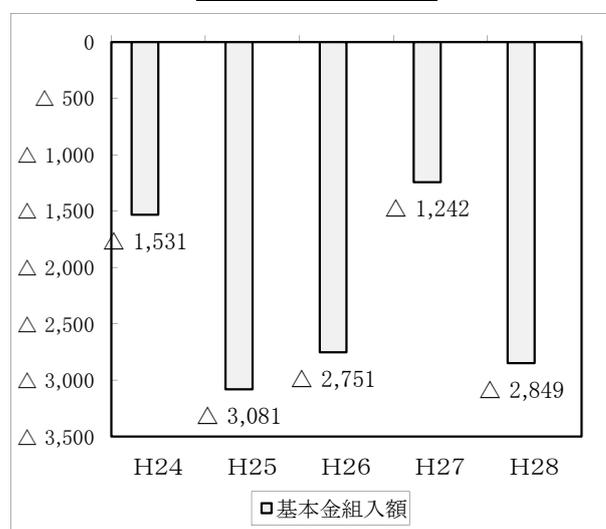


(%)

項 目	H24	H25	H26	H27	H28
学生生徒等納付金比率	75.4	76.4	73.4	77.3	78.0

(学生生徒等納付金÷経常収入)

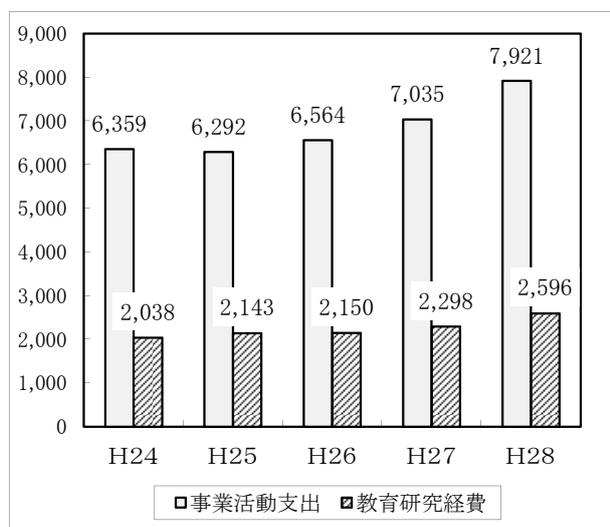
基本金組入額の推移



(%)

項 目	H24	H25	H26	H27	H28
基本金組入率	19.0	37.3	29.6	13.5	30.0

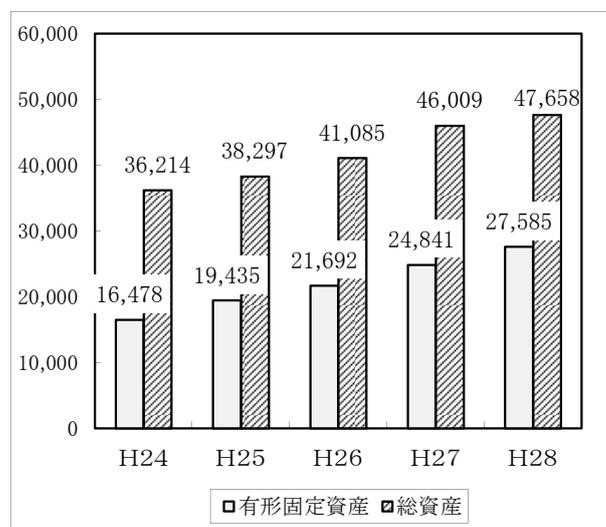
事業活動支出及び教育研究経費の推移



(%)

項 目	H24	H25	H26	H27	H28
事業活動支出比率	78.7	76.1	70.5	76.7	83.5
教育研究経費比率	25.3	26.1	24.2	25.8	27.8

総資産及び有形固定資産の推移



(%)

項 目	H24	H25	H26	H27	H28
有形固定資産構成比率	45.5	50.7	52.8	54.0	57.9